

オオタカ



かんきょうしょう ぜつめつ き ぐ
環境省指定準絶滅危惧、鳥取県指定絶滅危惧

(撮影：桐原佳介)

会見地区にて

それは、平成19年7月14日のことでした。会見地区でアイガモ農法をされているIさんからお電話がかかってきました。Iさんの田んぼに張っている防鳥用のテグスにタカが絡んで、テグスを外そうにも、激しく暴れるので危なくて近づけないとのことでした。そこで、主人がすぐに現場に行つたところ、テグスに絡まっていたのは泥水まみれのオオタカだったのでした。このオオタカは、これまでも毎日のようにIさんの田んぼに通つて、アイガモのヒナを狙つていたようです。その後、オオタカは動物病院で手当を受けて、元の場所で放鳥されました。この写真はその時に撮影したものです。

かつては、ダム工事などの公共事業に大きな影響力を持つていた、生態系の頂点である猛禽類、オオタカ。近年、都市部でも繁殖が確認されるようになり、ドバトやカモなど市街地に多い鳥類を主食として、したたかに生きています。町内各所でも生息が確認されていますが、どこで子育てをしているのか分かっておら

ず、まだ繁殖記録がありません。Iさんによると、オオタカの被害にあつたアイガモは、その年だけで百羽ほどと聞きました。これでは、オオタカがいくら希少種であつても、農家にとつては害鳥になります。Iさんも、「アイガモは自然界に存在しない鳥なので、オオタカがアイガモを襲つて食べ続けているのは正しい食生活であるとは言えない。このことは農家にもオオタカにも不幸なことだ。」とおっしゃっていました。

オオタカの生息地でアイガモ農法を続けるために、なにかいい方法はないだろうかと苦慮していた中、今度はサシバというタカがアイガモ田んぼにやってくるようになりました。すると、不思議なことに、オオタカは姿を見せなくなつたそうです。カエルやヘビ等を主食とするサシバは、オオタカと同様、豊かな里山環境を象徴する鳥です。サシバとオオタカにとつても、人にとつても住み心地の良い南部町であつて欲しいと思います。

自然観察指導員 桐原真希